

学校概況

1 校区の概要

校区は南砺の山麓に位置し、面積約65.84km²、世帯数2,894戸、人口は7,219人（令和8年3月末現在）で、商工業中心の旧町部と広域な農村部を有している。

昭和27年5月に城端町、南山田村、大鋸屋村、藁谷村、北野村の1町4か村が合併し、更に昭和31年2月に山田村の細木、大窪地区が併合してできた自然に恵まれた地域である。城端には五百年の時代の重みを今に語る善徳寺、平成14年に重要無形民俗文化財の国指定を受け、平成28年にユネスコ無形文化遺産に登録された曳山祭をはじめ、全国的に有名なむぎや祭等、伝統に培われた文化があり、越中の小京都として親しまれている。

絹織物の町として栄えた城端も時代とともに移り変わりを見せており、道路網の整備とともに、恵まれた自然や地域の特性を生かし、産業の町、さらには福祉の町として歩んでいる。

地域の人々の教育への関心は高く、地域の方が支援ボランティアとして、子供たちの体験的な学習活動を支えるような体制が整備されてきた。また、保護者も学校教育に協力的であり、学年懇談会や親子ふれあい活動等のPTA活動が活発に行われている。

平成16年11月に8町村が合併して南砺市が誕生し、南砺市立城端小学校と校名が一部変更となった。また、平成16年8月から、安全で健康な学習環境をテーマとした新校舎の改築工事が進められ、平成19年10月に竣工式を行った。平成28年11月には、城端小学校統合50周年記念式典を行い、今年度は城端小学校統合60周年を迎えた。「伝統文化」「豊かな自然」等を融合した城端地域ならではの学舎で、地域の方とともに歩む地域に開かれた学校づくりに取り組んでいる。

2 学校の所在地

富山県南砺市城端1610番地

北緯 36° 33' 22 東経 136° 32' 4 海拔 151.11m